

野澤市治郎の名跡調べ

初代野澤市治郎

初代野澤市治郎の門人にして東京佳人、文化年代の大立者なりき。

二代鶴澤市治郎

初代鶴澤文三の門人なり、父は鶴澤勝鳳と稱せしが大夫に轉向し、竹本越路大夫を名乗る、(越路の元祖)悴市治郎に二代目勝鳳を繼承せしむ。天保十五年正月道頓堀若大夫芝居に於て五世染大夫事竹本越前大掾藤原明郷の國姓爺合戦三の切獅子ヶ城を彈きて三世野澤吉兵衛を襲名す、後鶴澤龜治郎の天裏美音聲なるより此の天資を大夫に轉換せしめ五世竹本春大夫の門に入れて初代竹本南部大夫と命名し、自ら南部を彈きて各地を廻る。江戸に至るに及んで彌々名器は自然に認められ父の名跡を繼ぎ二代目竹本越路大夫となる、その後竹本攝津太掾を拜領せり。(父は元祖越路。子は三世吉兵衛、共に江戸にて死去す、墓碑あり。

三代野澤市治郎

三代目野澤吉兵衛の門人にて初名は師匠の幼名市治郎と命名さる、後年頓平、太八。次に野澤勝鳳と稱ふ。師匠の歿後は四代目吉兵衛の弟子となり明治十六年三度改名して野澤喜鳳と稱したり。

四代野澤市治郎

六代目野澤吉兵衛(江戸堀)が未だ三代目吉三郎時代の門人にて初名兵市より四代目市治郎と改む。其の後四代目吉三郎を襲ぐ。其の師匠六代目吉兵衛逝去後七代目を相續し、昭和十七年四月廿三日午前十時廿五分東京宿舍にて歿す。

五代野澤市治郎

七代目野澤吉兵衛の門人、則ち野澤吉季が野澤家一統の推薦に依り、昭和十八年二月文樂座興行にて襲名披露を爲す。